

◆ 前芝の燈明台 記念点灯式 景観重要建造物の指定を地域で祝う！

# 118年ぶりに明かりが灯り かつての湊町の風景がよみがえる！



前芝の景観のシンボルである「前芝の燈明台」が、3月15日(土)に、豊橋市の景観重要建造物に指定されました。これを記念して、3月24日(月)、前芝校区自治会、みなと塾、前芝伝統文化保存会、豊橋市の共催で点灯式を行いました。子どもから大人まで約200人の地域住民が集まり、明治40年から118年ぶりに明かりを灯しました。

集まった住民のカウントダウンの掛け声に合わせて、前芝町の子どもたち3人がスイッチを押して、明かりが灯され、かつての湊町の風景がよみがえりました。

前芝町の鈴木自治会長やみなと塾の加藤代表から、喜びのあいさつ。笛と締太鼓の演奏で、式を盛り上げました。点灯式の後には、見学会やミニコンサートなど、点灯をお祝いする催しが行われ、参加した住民は、それぞれの時間を楽しみました。

今後はお盆の時期に開催される、「川灯ろうまつり」でも点灯される予定です。



▲ 暖かい光が灯った燈明台に見とれる前芝町の住民たち

地域の誇りとして、みんなで大切にしていきましょう。

景観重要建造物に指定され大変喜ばしい。これをきっかけに、湊町の歴史や文化を振り返り、より良い町にしていきたいです。



▲ 前芝町自治会  
鈴木会長



▲ みなと塾  
加藤代表



▲ 地域の子どもたちや前芝  
カフェが作った灯籠の温  
かい光が会場を照らす



◀ 前芝町で笛や三味線などの教室をされている「小島和子、さんと娘の「日和、さん」笛と締太鼓で式を盛り上げました！式の終わりにはミニコンサートも開催！

## ★ 燈明台の内部見学会も開催！

燈明台に明かりを灯した後、前芝伝統文化保存会の林代表が、燈明台の内部見学会を行いました。内部では、江戸時代の伝統的な建築様式の特徴や昔の使われ方などの解説も交えながら、見学会が行われ、たくさんの地域住民が参加しました。参加した住民は、普段、見ることができない燈明台の内部の様子を珍しそうに見渡し、内部の独特な雰囲気を楽しんでいました。

林代表は、「このようにたくさんの住民の方に見ていただけて嬉しい」と話していました。



▲ 明治時代に使われていたランプも展示



▲ 燈明台の解説をする林代表と船絵馬を見て楽しむ親子

## 前芝の歴史と文化

### ● 前芝の燈明台の歴史

かつて前芝町には、前芝湊があり、吉田藩の吉田湊への物資の運搬や対岸の伊勢神宮へ渡航する船舶の碇泊で賑わっていました。そこで吉田藩が海上航行の安全と前芝湊・吉田湊の指針として寛文9年（1669）に本燈明台を建設し、村民の手で毎夜点灯されていました。台風や高潮により幾度も損壊・流失しましたが、その都度、吉田藩により修復され、現在のものは昭和41年（1966）に復元されたもので、当時の姿をとどめている貴重な建造物です。



明治40年（1907）、すぐ横に愛知県営燈台が新設されるとともにその役目を終えましたが、地域住民による前芝燈明台保存会により大切に保存されてきました。昭和40年（1965）に所有が保存会から豊橋市に移管されています。木造の燈明台の遺構が残っている例は、全国的にも少なく昭和40年（1965）には愛知県史跡に指定されています。



### ● 前芝のまち並み

前芝町は、かつて湊町や漁村として栄えた地域で、船溜まりや前芝燈明台などが残り、かつての面影を感じさせる静かなまち並みが広がっています。一部には漁村特有の入り組んだ路地が残っており、低層の屋敷が密集し、往時の面影を今に伝えています。

海を望む堤防沿いに建つ燈明台の姿は、地域の歴史的な景観を彷彿とさせる存在であり、木造瓦葺きの建築様式は景観配慮の規範となっています。



地域の景観のシンボルである燈明台を中心に、かつて湊町であった前芝らしいまちづくりをしていきたいですね！（みなと塾 加藤）